

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び

II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成

III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築

IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成

V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都市 】

学校名【 御所東小学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V（複数選択可）
2 実施対象者 (学 年 ・ 人 数)	第6学年 2学級 36人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (特別の教科 道徳) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	○社会には様々な立場の人がいることを知り、障がいのある人もそれを支える人もより良い社会について共に考え、行動していることを理解する。 ○障がいのある人と交流し、感じたことや気付いたことから「共に生きる」ために何が自分にできるかを考える。また、交流を通して、様々な考えを関連付けたり推論したりして考えを練り上げる。
5 取組内容	1. 講師紹介・あいさつ 2. 車いす体験 ・車いすにのって、走ってみる（前進、後進、ジグザグ等） 3. 車いすバスケットボール体験 ・実演 ・試合形式で、車いすバスケットボールをする 3試合 4. 休憩 5. 選手によるお話 ・車いす生活を送るようになった経緯 ・車いすバスケットに出会って… ・みんなに伝えたいこと 6. 質疑応答・感想

6 主な成果

- 車いすバスケットボールや選手の迫力を身近に感じたことで、オリンピック・パラリンピックに興味をもった子どもが増えた。
- パスが通る気持ちよさや得点が決まった喜びを共有することができたことで、「障がいがあるから…」「障がいがある人にはどう接すればよいのだろう」「障がいのある人にはこうしなくちゃ…」という不安や先入観の壁を取り払うことができた。
- 選手のお話を聞く前に、車いすバスケットボール体験をしたことで、選手の技術の高さや努力の重み、身近な人の支えの尊さなどを感じることができた。
- 選手のお話から、体に何らかの障がいをもつことは、自分にも起こるかもしれないことであること、施設・設備が整うことは重要だが、一番大切なのは互いの思いやり人の心の優しさであることに気付くことができた。



7実践において工夫した点 (事業の特色)	・カリキュラム・マネジメントとして、年度当初に総合的な学習の時間や特別の教科道徳と関連付けて行う計画を立てたことで、子どもたちが「共に生きる」という課題意識を継続してもつことができるように考えた。 ・本校は開校 3 年目であり校舎の中にはユニバーサルデザインの視点で工夫されているところがたくさんある。そこで、校舎を案内したり選手と接したりすることで、改めて学校の中の優しさから生まれた工夫に気が付くことができるようにした。 ・校区内には、高齢者や障がいのある人、幼児と接する施設がほとんどなく、自然とふれあう機会も少なくなってしまうている。そのため、このような事業は積極的に活用させてもらうようにしている。 ※事業終了後、総合的な学習の時間での取組について説明する様子。自分たちでデザインしたオリジナルバッジをプレゼントした。 ※横断幕作成について説明する様子。 体育館1Fから校舎4Fまで案内をする機会となった。
8主な課題等	・事業終了後、車いすバスケットボールの様子を視聴する機会をもったところ、子どもたちはしていただいたお話の内容をより理解できたようであった。映像資料の効果的な活用も、考えていきたい。
9来年度以降の実施予定	・車いすバスケットボール体験は、子どもたちが体験を通して、「障がいがある、ないに関わらず、共に生きること」を感じさせてもらえる素晴らしい体験なので継続して行いたい。 ・来年は、総合的な学習の時間や特別の教科道徳だけでなく、社会科等とも関連付けながら実施することで、社会には様々な立場の人がいることや障がいのある人もそれを支える人もより良い社会について共に考え、行動していること等が理解できるようにしていきたい。